

新春ごあいさつ

心合わせて民俗行事の伝統を継承

伊勢御遷宮委員会 会長
鈴木 健一



新年あけましておめでとうござい
ます。市民の皆様には、輝かしく希望に
満ちた新年をお迎えのこととお慶び
申し上げます。

さて、昨年は平成から令和への御代
替わり、天皇陛下の御譲位と御即位
に当たっては、市を挙げて感謝と奉祝
の意をお伝えした心に残る年であり
ました。11月には大嘗祭の日に合わせ
て令和祈念行事を開催し、次のお木
曳を担う地域の奉献団、各町の皆様
と天皇陛下の御即位を奉祝し、令和
の御遷宮に向け伊勢の民俗行事が今
後も継承できますように心合わせの
参拝が出来ましたことに、皆様へ感謝
を感じた次第です。

日には内宮領川曳が開催され、次世
代を担う伊勢の子どもたち、皇學館
大学生、伊勢の地域の皆様をはじめ
多くの方がご参加いただきました。
この伊勢の民俗行事を次世代につな
ぐ初穂曳は、昭和47年の開催から毎
年欠かさず繋げられ今年で第49回を
迎えます。来年には第50回記念の初
穂曳、やがてお木曳行事の準備が始
まっております。6年後の第一次お
木曳、そして令和15年のお白石持行
事と、次の御遷宮へ向けて伊勢のこ
ろを承継いただき、地域の誇りである
民俗行事の伝統が時代を超えて継承
できますように、市民の皆様のご理解
とご協力を賜りますようお願い申し
上げます。

新年明けましておめでとうござ
います。日頃より、伊勢御遷宮委員会の
活動にご理解ご協力を賜わり厚く
御礼申し上げます。

さて、昨年は平成から令和へと
新たな時代を迎え、当会では11月
に令和奉祝の参拝行事を開催させ
ていただきました。ご協力賜わり
ました神宮様をはじめ、多数ご参
加の各町・奉献団、関係機関の皆
様に厚く御礼申し上げますと共
に、時代の節目の大変貴重な機会
に立ち会えました事に、伊勢市民
の一人として感謝と誇りの念を深
く感じる次第であります。

等の準備に取り掛かれ、新たな
世代への継承も行っていたたくも
のと存じます。伊勢は、20年毎の
ご奉仕を通じて、家族、友人、親
類縁者が我が町に集い、絆を確か
め合える素晴らしい街です。時代
時代の課題も皆で乗り越え、これ
からも伝統を継承いただきたく存
じます。

また、今年の初穂曳に関しまし
ても、御初穂奉献の心を大切に
無事のご奉仕をいただきますと共
に、令和の式年遷宮ご奉仕へと繋
がる力みなぎる行事となります事
を期待しております。決意を新た
に諸事業に取り組んで参る所存で
あります。

感謝と誇りを胸に、令和の御遷宮へ

伊勢御遷宮委員会 委員長
山野 稔



第48回 初穂曳

報告

伊勢の民俗行事を次世代につなぐ令和初の初穂曳
神嘗祭当日、神宮にお初穂を奉納します
外宮は3台の車で陸曳、内宮は五十鈴川にて川曳
秋の空にエンヤの声が響きました



令和元年10月15日・16日、
神宮のお正月「神嘗祭」を
奉祝する初穂曳が実施さ
れました。

15日の外宮陸曳は、神宮
の3台の奉曳車それぞれに
お木、樽、そして米俵を積
み、お初穂が飾られました。
伊勢市民や皇學館大学生、
田植え・稲刈りにも参加し
た子どもたち、県内外の特
別神領民など約1500名
が参加。秋晴れの空の下、車
を曳き、外宮へと令和初の
お初穂を奉納しました。

昭和47年(1972年)か
ら開催され、令和3年には
第50回を迎える初穂曳。伊
勢の民俗行事、お木曳行事
お白石持行事の伝統を繋い
でいくため、伊勢神宮奉仕
会青年部が中心となり運
行にあたっています。

陸曳



かわびき
川曳
子ども木運び(川曳)



内宮
初穂曳(川曳)



外宮
初穂曳(川曳)

16日の内宮川曳は、旧内
宮領地域が学区ごとの持
ち回りで実施しています。
今年は一見連合奉献団が
担当。台風の後とは思えな
い清流となった五十鈴川か
ら内宮へ曳き込まれる初穂
船を川辺や宇治橋から、多
くの方が見守りました。



稲刈り(8月25日)

子どもたちと初穂を収穫。

伊勢神宮奉仕会青年部
は、次世代へつなぐ初穂曳の
一環として、参加する子ど
もたちと共に、お米作りか
ら行い、奉納するお初穂を
収穫します。

春の田植え、そして8月
末には稲刈りを体験した子
どもたち。初穂曳では元氣
いっぱい綱を曳き、お初穂を
外宮へ奉納しました。



奉曳を楽しむ子どもたち

※伊勢神宮奉仕会青年部の活動について
は事務局にお問い合わせください。